

塘研究室現地調査報告 06

7月11日に裏磐梯にて現地調査を実施しました。この日の目的は難波君の試料収集でした。午後には裏磐梯ビジターセンターで夏休みに実施する「水生生物の展示・紹介」のための生体展示用試料の採集も、センターのスタッフの方お二人と実施しました（コツブゲンゴロウ、クロゲンゴロウ、オオコオイムシ、ヒメミズカマキリ、ヒメアメンボなどを採集しました）。

難波くんの研究（裏磐梯地域の水域に生息する外来生物，ウチダザリガニとフロリダマミズヨコエビの食性解析）と関わって，安定同位体比解析用のフロリダマミズヨコエビ，その餌資源となり得るもの（リターやバイオフィームなど），調査地に生息する植食者，捕食者などの試料を，長瀬川蛇平橋下，小野川橋下の河川2ヶ所と五色沼湖沼群の毘沙門沼（東岸付近），レンゲ沼の池沼2ヶ所で採集しました。河川では植食性底生動物としてヒラタカゲロウ類，オオシマトビケラ，捕食性底生動物としてトンボ類を，池沼では植食性底生動物としてタニシ類（捕食性底生動物はトンボ類）をそれぞれ採集する予定でしたが，毘沙門沼ではタニシ類が採集できず，また，レンゲ沼ではフロリダマミズヨコエビが採集できない，という予想外の事態が生じてしまい，急遽，池沼での植食性種採集を諦め，調査地もレンゲ沼から桧原湖畔探勝路沿いの池に変更しました（トンボ類は採集できました）。桧原湖畔探勝路沿いの池もフロリダマミズヨコエビの個体数はかなり少なく，難波君は採集に大変苦労していました。毘沙門沼や河川では何も苦労せずにフロリダマミズヨコエビを採集できたので，何故，これらの池沼の個体数が激減しているのか不思議です。

7月15日には木目澤さんの研究材料であるアザミウマ類 *Bolacothrips yasukii* の採集のため，本種の模式産地である茨城県つくば市の小貝川河川敷に木目澤さんと行ってきました。34℃の暑さの中（福島市の前日の再校気温，39℃に比べればましですが，休憩しながらも2時間ほどが限界），頑張った甲斐があり，炎天下のススキやアシから数個体を採集することができました。これで *Thrips* genus-group の日本産8属はすべて確保できました。遺伝子解析の結果が楽しみです。



長瀬川蛇平橋下での採集



毘沙門沼（五色沼湖沼群）での採集



レンゲ沼での採集（フロリダマミズ採れず）



炎天下の小貝川河川敷の遊歩道